設置後の点検（チェックリスト）

点検		点検内容	チェック
機器及びその周辺	ドアの開閉	他の機器への障害はありませんか。	
	転倒防止金具 前ズレ防止金具	転倒防止金具及び前ズレ防止金具は取り付けましたか。	
給湯（給水）・排水接続	給湯機(器)との接続の場合	指定する給湯機（器）に接続されていますか。	
	フィルター	給水ホースと止水栓との接続部にフィルターを挿入しましたか。	
	排水ホース	排水管との接続部と確実に接続したことを確認しましたか。 また押しつぶされたり無理に折れ曲がったりしていませんか。	
電気接続		電源コンセントは専用回路で、電源プラグは125V　15Aのアースターミナル付埋込みコンセントに接続しましたか。	
		アース線を接続しましたか。	
試運転		試運転を行い、正常に動作しましたか。	

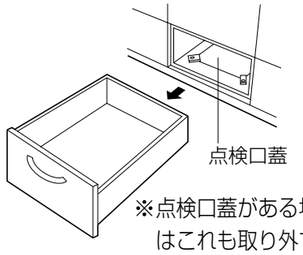
お客様への取り扱い説明

- 取扱説明書によって製品の取り扱いを説明してください。
- 保証書に必要事項を記入のうえ、保管のお願いをしてください。
- 寒冷地において冬季、長期間ご使用にならない場合は、下記の水抜き方法をご説明のうえ本設置説明書をお渡しください。

※図はシンク横設置（扉・スライドタイプ）の場合を示しています。
その他の場合も同様に作業を行ってください。

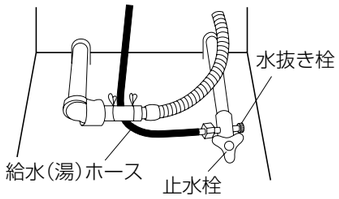
寒冷地において冬季長期間ご使用にならない場合の水抜き方法（機内給水経路）

①下部キャビネットの引き出しを抜く。

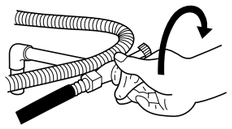


※点検口蓋がある場合はこれも取り外す。

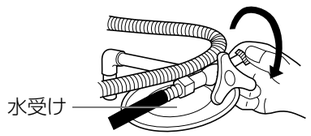
- 給水（湯）ホースが止水栓に下図のように接続されています



②止水栓を閉じる。

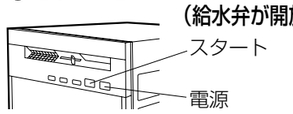


③水抜き栓下部に水受けを置き、水抜き栓を取り外す。（⑤図参照）



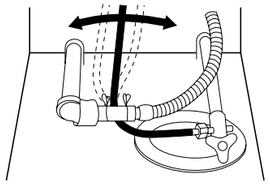
- 水受けは約100mlが受けられる皿またはタッパーを準備する（高さ25mm以下）

④電源を「入」にし、スタートボタンを押す。（給水弁が開放される）



- 運転は乾燥のみコース以外いずれも可

⑤給水（湯）ホースを左右に振ったり、軽くたたいたりして衝撃を与える。



- 水受けに残水が排出された後も水抜き栓開口部に乾いた布を押し当て、内部の水を吸いとる。（水滴が落ちなくなるまで）

⑥電源を「切」にし、排出水を処理する。

⑦水抜き栓を取り付ける。（必ず守ること）

- 止水栓は再使用するまで閉じたままとする

⑧キャビネットの引き出しを取り付ける。

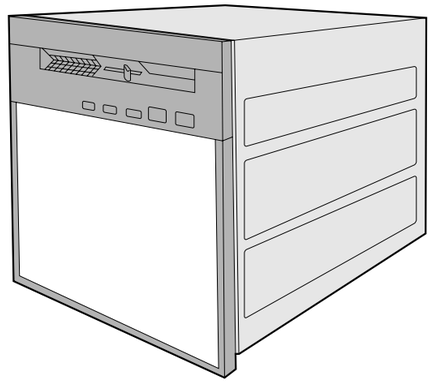
P9902-93900

食器洗い乾燥機

品番 NP-P60V1PKTA NP-P60V1PSTA

取付設置説明書

特定保守製品



もくじ

安全上のご注意 必ずお守りください …… 2
各部のなまえと寸法 …… 4
電気工事の注意事項 …… 5
給・排水工事の注意事項 …… 6
設置場所について …… 7
設置手順
Ⅰ.シンク下設置の場合（ホーロー製） …… 7
Ⅱ.シンク下設置の場合（木製） …… 12
Ⅲ.シンク横設置の場合（足元スライドタイプ） …… 17
試運転 …… 22
試運転後の作業 …… 23
設置後の点検（チェックリスト） …… 裏表紙
お客様への取り扱い説明 …… 裏表紙

設置をされる方へのお願い

- この製品は、（財）電気安全環境研究所（JET）より『給水装置の構造及び材質の基準（厚生省令）』に適合するとの証明を受けています。このため、給水装置への接合に際し、逆止弁等の設置は必要ありません。なお、JETは、厚生省の「給水装置に係る第三者認証機関の業務等の指針」に示された要件を備えた第三者認証機関のひとつであり、他に（社）日本水道協会等があります。
- 給水装置工事（配管工事）は、各市町村にて施工承認を受けた後、指定工事業者が施工してください。
- 製品の機能が十分発揮されるように、この取付設置説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
- 設置終了後 設置後の点検 のチェックリストに基づいて必ず再確認を行ってください。
- この説明書は設置終了後、お客様へお渡しください。
- 設置に関して不明な点がありましたらお買い上げの販売店へご相談ください。

この取付設置説明書どおりに設置・取り付けをしないと、事故・損害を生じても当社は一切責任を負えません。

特定保守製品に関するお願い

- 本製品は、消費生活用製品安全法で定められた特定保守製品です。
- 特定保守製品とは「経年劣化により安全上支障が生じ、一般消費者の生命または身体に対して特に重大な危害を及ぼすおそれが多いと認められる製品であって、使用状況からみてその適切な保守を促進することが適切なものとして政令で定めるもの」です。
- **付属の取扱説明書と所有者票（黄色の封筒に入っています）は、必ず特定保守製品取引事業者またはお客様（消費者、賃貸業者等の所有者）にお渡しください。**
- 消費生活用製品安全法にて、特定保守製品の所有者は製品の製造・輸入事業者（特定製造事業者等）に対して、所有者情報を提供する責務が定められています。

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

⚠	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
⃠	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

（上記は絵表示の一例です。）

⚠警告

絶対に分解したり修理・改造しない

分解禁止

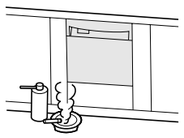
発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

● 修理は販売店へご相談ください。

火のついたローソク、蚊取り線香、煙草などの火気や、揮発性の引火物を近付けない

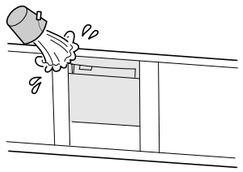
火気禁止

火災や変形の恐れがあります。



水につけたり、水をかけたりしない

水ぬれ禁止



ショート・感電の恐れがあります。

電源プラグは、刃及び刃の取付面にほこりが付着している場合はよく拭く

火災の原因になります。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

禁止

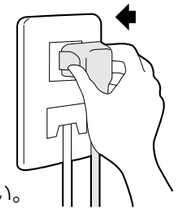
（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしないでください。）

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

● コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。



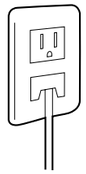
● 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠警告

アースを確実に取り付ける

アース線接続

故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

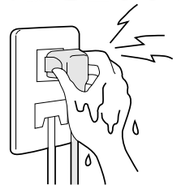


● アース工事は販売店または電気工事店にご相談ください。（アース工事費は、本製品の価格には含まれていません。）

ぬれた手で、電源プラグの抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。



電源コードを切断したり、屋内配線ケーブルと直結したりしない

禁止

感電・漏電や火災の原因となります。

電源コードを転倒防止金具や本体の底面や脚との間に挟み込まない

禁止

感電・漏電や火災の原因となります。

コンセントを床面にころがして、電源プラグを差し込み使用しない

禁止

感電・漏電や火災の原因となります。

コンセントの差込みがゆるいときや、電源コードや電源プラグが傷んでいるときは使用しない

禁止

感電・ショート・発火の原因になります。

● 販売店に点検・修理を依頼してください。

延長コードは使わない

禁止

発熱による火災の原因となります。

ビルトインのとき電源コード、アース線、排水ホース、給水ホースに傷をつけない

禁止

感電・漏電・火災や水もれの原因となります。

電源プラグはコードが下方向に出るよう、コンセントに奥まで確実に差し込む

上方向に出すとプラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火する恐れがあります。

定格15A・交流100Vのコンセントを単独で使う

他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。

⚠注意

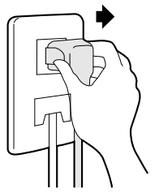
包装を外す時刃物を使わない

禁止

刃物により製品が損傷し水漏れ等の恐れがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って抜く

感電やショートして発火することがあります。



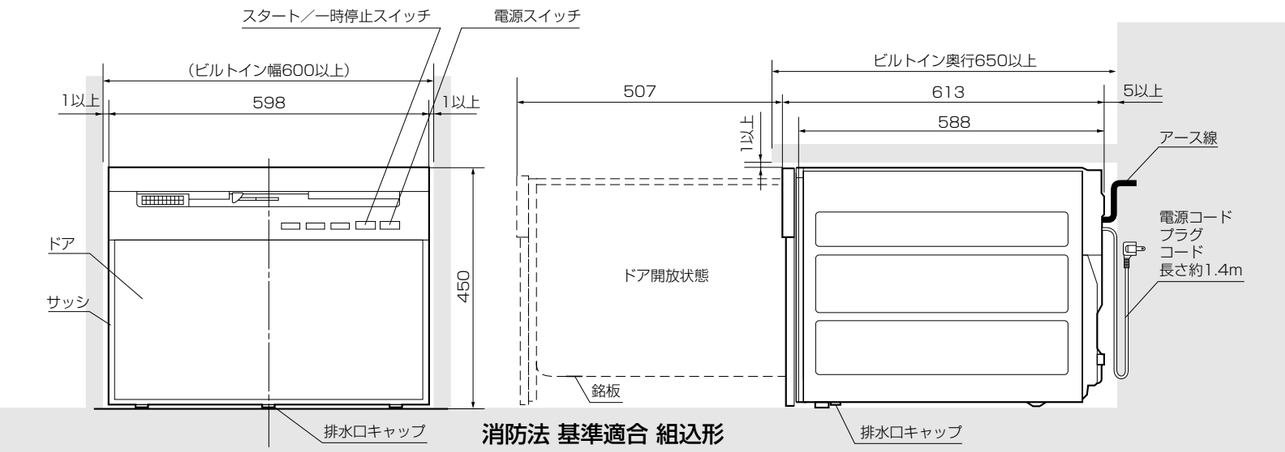
各部のなまえと寸法

● 本体およびかごのテープやダンボールなどは全部取りはずしてください。
● ドア下部裏側のL型の包装用部品も忘れずに取りはずしてください。

※ドアに貼り付けている本体のテープはシンク下設置の場合に、ビルトイン時の作業性を向上させる補助部材として使用するため、ていねいに取りはずして本体のドア面等に仮り貼りしておいてください。

※本機を設置する場合は下図の設置方法をお守りください。
（離隔距離については0cmで消防法の基準に適合しております。）

本機は奥行き600mmのキッチンには設置できません。



消防法 基準適合 組込形

（単位：mm）

作業が完了したらチェック

チェック

付属品の確認

※小袋入りの小ネジはホーロー製キャビネットの場合に使用

設置に必要な付属品

●ホースバンド㊀小（1本）	● ホースジョイント ● ホースバンド㊀大（2本）	● 結露防止プレート ● タッピンネジ(黒色、3本)	●ワイヤー（1本） （ℓ＝500mm）
● 転倒防止金具	● 前ズレ防止金具 ● タッピンネジ（2本）	● 側面フィラー（裏面テープ貼り、2本）	
● タッピンネジ（2本）	● 前ズレ防止金具B（2個） ● 小ネジ㊀短（2本）	小袋入り ● 小ネジ㊀長（4本）	

電気工事の注意事項

■工事は全て電気設備技術基準に準じて行ってください。
● 電気工事、アース工事は電気工事士の有資格者が行ってください。
● 電源回路は100V、15A以上の専用回路が必要です。
● 本体を設置する場所の背壁に、給・排水管工事部分を避けた位置に埋込みボックスを設け、これに電源電線、アース線を配線します。
● コンセントは定格表示125V、15Aのアースターミナル付埋込みコンセントを使用してください。
（コンセントは壁面に必ず固定します。）
● アース工事を必ず行ってください。
（アースは法令上必要です。）

⚠警告

定格15A・交流100Vのコンセントを単独で使う

他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。

⚠警告

電源コードを切断したり、屋内配線ケーブルと直結したりしない

禁止　感電・漏電や火災の原因となります。

コンセントを床面にころがして、電源プラグを差し込み使用しない

禁止　感電・漏電や火災の原因となります。

アース(接地)のしかた

■感電事故防止のため、必ずアース線の取り付けをしてください。

■水気や湿気の多い所及び屋外に設置する場合は、電気設備技術基準に基づき、必ず電気工事士によるD種接地工事を行ってください。
（法令で規定されています。）
なお、水気のある場所では、このほかに必ず漏電遮断機を取り付けてください。

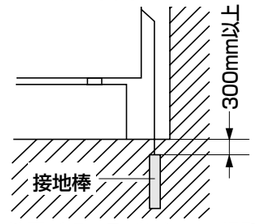
■ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路および漏電遮断器を入れた他の製品のアース回路には、接続しないでください。
（法令で禁止されています。）

■アース端子付きコンセントを利用される場合は、接地抵抗（100Ω以下）をご確認ください。

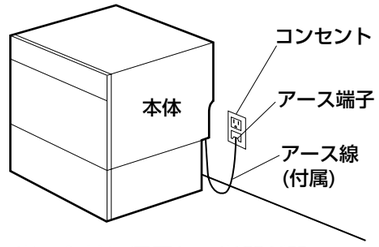
■設置場所の変更やご転居の場合には、必ず再度アース取り付けを行ってください。

※ご不明の場合は販売店または電気工事店にご相談ください。

●アース棒を使用の場合



●アース端子付きコンセントを使用の場合



漏電しゃ断器の設置について

万一の漏電事故時の安全確保のために、漏電しゃ断器の設置が必要です。

漏電しゃ断器――住宅分電盤用小形漏電ブレーカー
（例）品番（パナソニック電工）BJS 203
定格電流20A、感度電流30mA
（AC100-200V両用）
既設分電盤の分岐安全ブレーカーHB型と同一サイズですから、そのまま取り替えでき、専用回路の漏電保護ができます。

※尚、主幹に漏電しゃ断器が設けてある場合は、新たに漏電しゃ断器を設置する必要はありません。

給・排水工事の注意事項

チェック

■本機が使用できる水道水圧は0.03～1MPa {0.3～10kgf/cm²} の範囲ですが、配管の状態によっては圧力が上昇する場合がありますので0.6MPa {6kgf/cm²} を超える場合は減圧弁を取り付けてください。

⚠注意

高水圧になる場合は減圧弁を必ず取り付ける

水もれの原因になります。

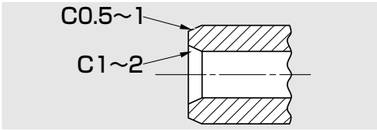
■本機は（財）電気安全環境研究所（JET）より「給水装置の構造及び材質の基準（厚生省令）」に適合するとの証明を受けています。このため、給水装置への接合に際し逆止弁等の設置は必要ありません。
各市町村の条例等により逆止弁を取り付ける場合で、本機の配管の近傍にシングルレバー水栓がある場合は、以下の対応のいずれかを実施してください。

- シングルレバー水栓の配管に減圧弁か、ウォーターハンマー防止器を取り付ける。
- 本機の配管に減圧弁を取り付ける。

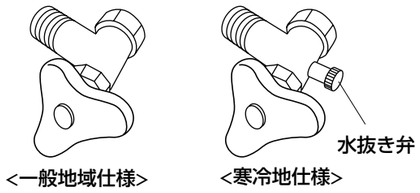
（水栓の急閉止時のウォーターハンマー現象により逆止弁の下流側の本機や本機の配管に異常な高水圧がかかり、本機の故障や水もれの原因となるためです。）

■本機は配管直結タイプですので設計及び施工工事の段階で給・排水の位置決めを正確にしてください。

- 給湯（給水）管は硬質塩化ビニルライニング鋼管（相当品）を使用して、断熱材を巻いてください。（給湯の場合は必ず耐熱配管にします。）
- 排水横枝管に至るまでの接続部分は耐熱塩化ビニル管（HT相当品）を使用してください。
- 配管用接着剤は耐熱用を使用してください。
- 給・排水配管の端面はバリのないよう処理し、かつ管内に残っている異物（切り粉など）を完全に取り除いてください。
- 専用止水栓を必ず取り付けてください。（止水栓のタイプは設置する場所により異なります。）
- ウォーターハンマー防止のため固定ゴマタイプの止水栓にしてください。
- 排水管HT20の端面内周に、面取り（C1～2）を施してください。外径外面側は面取り（C0.5～1）をつけるとホースの挿入が容易になります。



※冬季長期間留守し、凍結が心配される地域に設置される場合は水抜き弁を有した寒冷地仕様の止水栓を取り付けてください。



アングル型止水栓

お願い

元付け型の浄水器に接続しない

元付け型の浄水器に接続すると、水道法で規定されている残留塩素濃度が0.1ppm以下となり、屋内に給水される水が細菌等に汚染される（バクテリアが繁殖）おそれがあります。

給湯機（器）について

- 給湯は中型以上の深夜電力利用温水器、石油給湯機、10号以上の先止め式ガス給湯機等で70℃以下の温度に調整可能な機器に接続してください。
  ※電気温水器には別売のミキシングバルブの接続をおすすめします。（例：パナソニック・システム部材開発センター扱い。AD-MB905A等）
- 小型深夜電力利用温水器には接続しないでください。本機へ給水されない恐れがあります。

⚠注意

元止め式湯沸器には接続しない

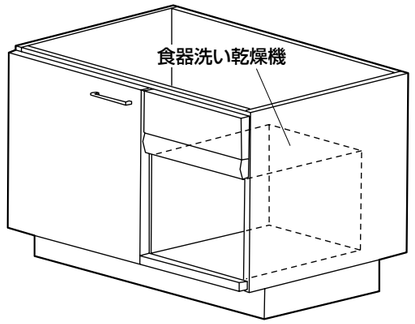
禁止

湯沸器からの水もれの恐れがあります。

設置場所について

本機を設置するタイプを確認してください。

Ⅰ.シンク下設置の場合（ホーロー製）	→設置手順は7～12ページ参照
Ⅱ.シンク下設置の場合（木製）	→設置手順は12～16ページ参照

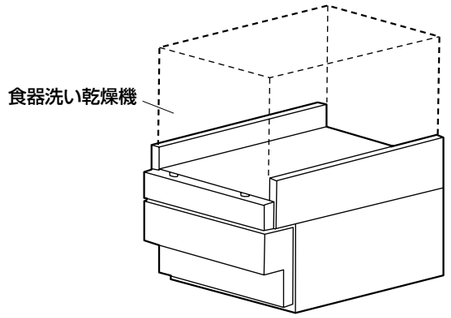


※本図は食器洗い乾燥機を右側に組み込む場合を示します。左側に組み込む場合は本図と対称になります。

Ⅲ.シンク横設置の場合（足元スライドタイプ）	→設置手順は17～21ページ参照

お願い

- 本機及びキッチンの金属部分が、家屋の壁中のラスや金属板に、電気的に接触しないようにしてください。法令により義務づけられています。



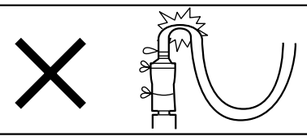
設置手順

Ⅰ.シンク下設置の場合（ホーロー製）

チェック

Ⅰ-1.設置前の確認

- コンセント位置の確認
  所定の位置に125V、15Aのアースターミナル付埋め込みコンセントがあることを確認してください。
- 給湯（水）管位置の確認
  水栓への給湯（水）管より分岐しますので、食器洗い乾燥機専用の給湯（水）管は不要です。
- 排水管位置の確認
  所定の位置に排水管があることを確認してください。

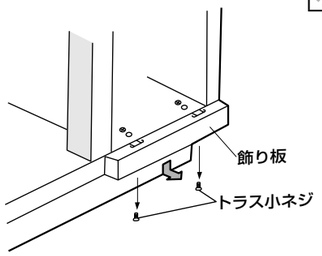


排水管の先端を上向きにしないでください。排水ホースが折れ曲がり、排水不良、機器の故障の原因になる恐れがあります。

Ⅰ-2.設置前の作業

チェック

①シンクキャビネットの飾り板を取りはずしてください。
また食器洗い乾燥機組み込み後、元に戻しますのでネジはなくさないようにしてください。
※飾り板を取りはずさずに食器洗い乾燥機を組み込むと飾り板を損傷する恐れがあります。

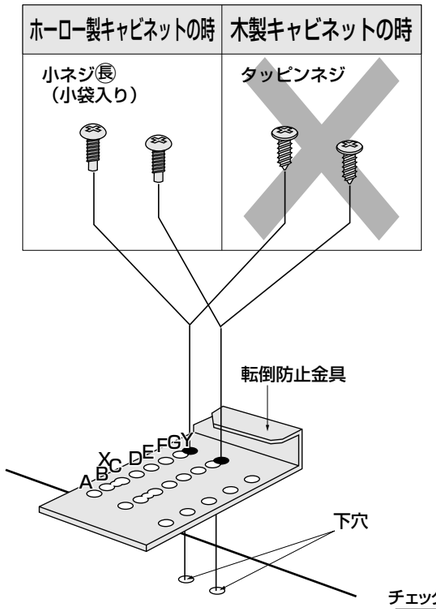


Ⅰ-3.設置

Ⅰ-3-1.転倒防止金具の取付

チェック

●転倒防止金具をYの穴の位置で、シンクキャビネット底面に取り付けてください。
※キャビネットの種類により使用するネジが異なります。右図にしたがってネジを選択してください。
※電気ドライバーは使わないで手締めしてください。ネジ山がつぶれて締まらなくなる恐れがあります。

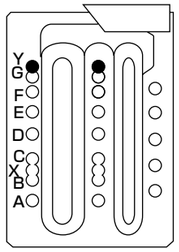


⚠注意

必ず転倒防止金具を取り付ける

開いたドアを押さえたときに製品が転倒する恐れがあります。

転倒防止金具

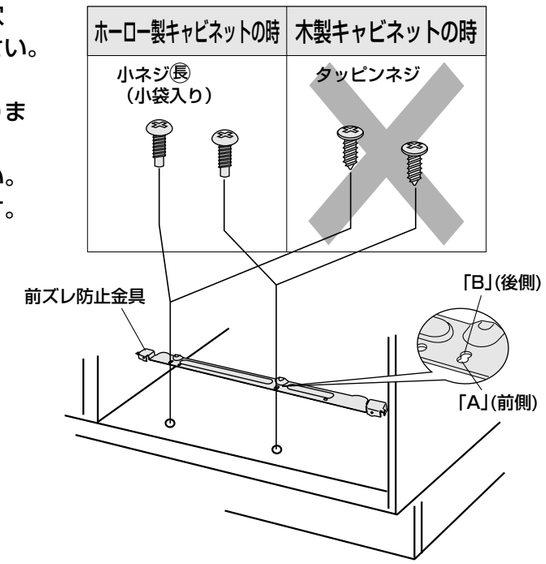


Ⅰ-3-2.前ズレ防止金具の取付

チェック

●前ズレ防止金具をシンクキャビネット底面の下穴に合わせて「B」の穴を選んで、締め込んでください。

※キャビネットの種類により使用するネジが異なります。右図にしたがってネジを選択してください。
※電気ドライバーは使わないで手締めしてください。ネジ山がつぶれて締まらなくなる恐れがあります。

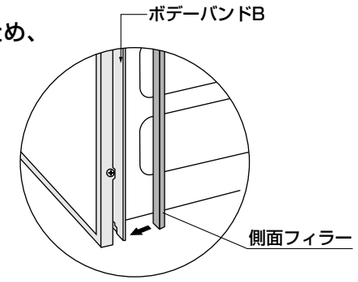


Ⅰ-3-3.側面フィラーの取付

チェック

●キャビネットと本体のボデーバンドBのすき間をカバーするため、同梱の側面フィラーを取り付けます。

側面フィラー裏面の台紙をはがし、ボデーバンドBの外側及び下面に合わせて貼り付けてください。

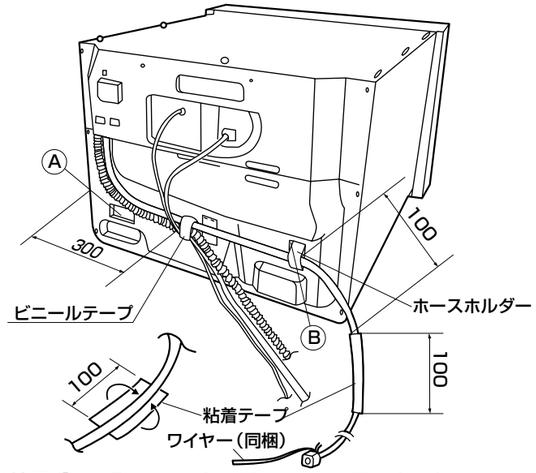


Ⅰ-3-4.ホース、コード類の接続準備

チェック

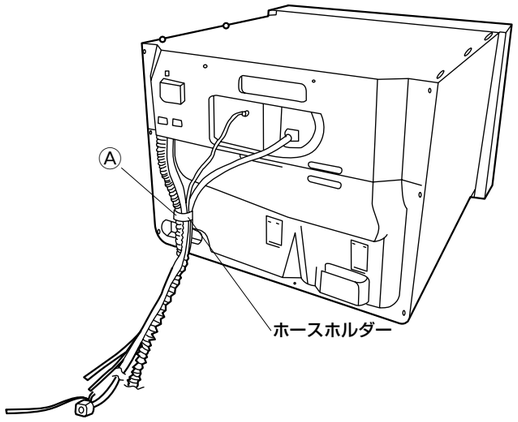
※本体をビルトインする時に作業がしやすくなり、また電源コード・アース線が転倒防止金具にかみ込まないようにするためです。必ず行ってください。
●食器洗い乾燥機の設置位置によりホース、コード類の束ね処理が異なります。

〈右設置の場合〉



①位置Ⓐに取りつけられているホースホルダーをはずし、電源コード・アース線・給水ホース・排水ホースを上図の位置でビニールテープ等で束ね、給水ホースのみ位置Ⓑで固定してください。
②位置Ⓑより約100mmのところでテープ（梱包時に本体のドアを固定しているもの）で約100mmの範囲巻きつけてください。
※ビルトインする時に給水ホースがシンク底面を滑りやすくするためであり、このテープの使用をお願いします。
③給水ホース先端にワイヤー（同梱）を上図のようにつないでください。
※ビルトインする時に、中仕切板の切り欠き部より給水ホースを引き出しやすくするためです。

〈左設置の場合〉



①位置Ⓐに取りつけられているホースホルダーを一度はずし、電源コード・アース線・給水ホース・排水ホースを位置Ⓐで固定してください。
②給水ホース先端にワイヤー（同梱）を上図のようにつないでください。
※ビルトインする時に、中仕切板の切り欠き部より給水ホースを引き出しやすくするためです。

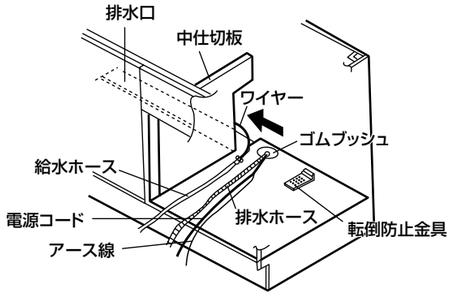
チェック

Ⅰ-3-5.本体のビルトインとホースジョイントの接続

①シンクキャビネットの底面のゴムブッシュに切り込みを入れ、排水ホース・電源コード・アース線を通し、底板排水口より引き寄せてください。
※ゴムブッシュの切り込みは大きく加工してください。食器洗い乾燥機を組み込んだ際、挟まって排水ホースが折れる恐れがあります。
②給水ホース先端にあらかじめつないだワイヤーを中仕切板の切り欠き部に通し、引き寄せてください。

本体をキャビネットに一気に押し込まない

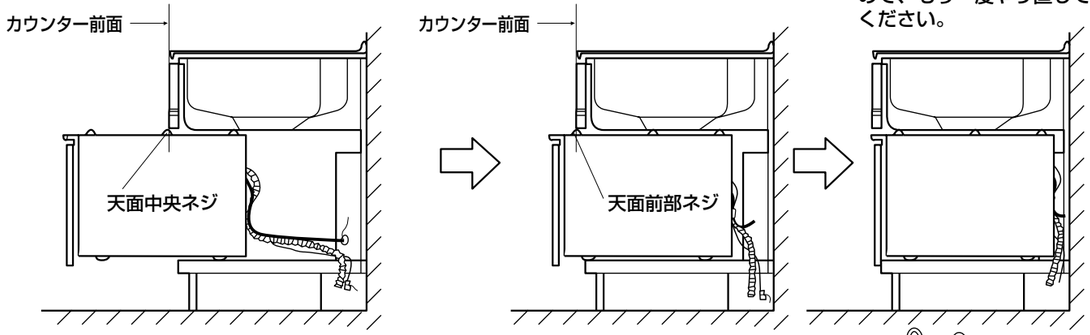
ホース類が折れたり、転倒防止金具に挟み込む恐れがあります。



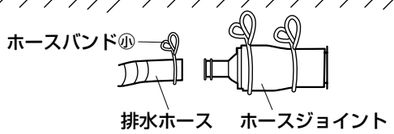
③食器洗い乾燥機を両手で持ち上げ、シンクキャビネット底面に後脚をのせた状態で、ゆっくり押し込み、カウンター前面と食器洗い乾燥機天面中央ネジ部が同一線上のところで、いったん給水ホース・排水ホース・電源コード･アース線を引き寄せてください。

④さらに食器洗い乾燥機をゆっくり押し込み、カウンター前面と食器洗い乾燥機天面前部ネジ部が同一線上のところで③同様に引き寄せてください。

⑤最後まで押し込み、再度引き寄せてください。
注)ホース、コード類の引き込みがスムーズでない場合は、かみ込みの恐れがありますので、もう一度やり直してください。



⑥排水ホースにホースジョイントを奥いっぱいまで挿入しホースバンド㊫で止めてください。
※排水ホースの内面を水で濡らして作業すると接続しやすくなります。
⑦【設置の事前作業】で取りはずした飾り板を取り付けてください。



⚠警告

ビルトインのとき電源コード、アース線、排水ホース、給水ホースに傷をつけない

禁止

感電・漏電・火災や水もれの原因となります。

電源コードを転倒防止金具や本体の底面や脚との間に挟み込まない

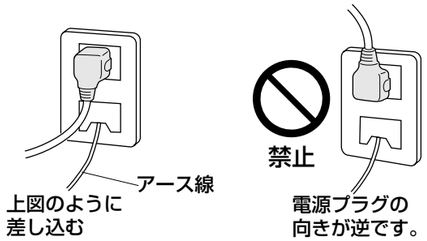
禁止

感電・漏電や火災の原因となります。

チェック

Ⅰ-3-6.電源コード・アース線の接続

※以下の作業はシンクキャビネットの底板排水口より行ってください。
①電圧が100Ｖであることを確認してから、埋め込みコンセントに電源プラグを差し込んでください。
②アース線をアースターミナルに接続してください。
※ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には、絶対に接続しないでください。
（法令等で禁止されています。）



⚠警告

電源プラグはコードが下方向に出るよう、コンセントに奥まで確実に差し込む

上方向に出すとプラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火する恐れがあります。

アースを確実に取り付ける

故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

アース線接続

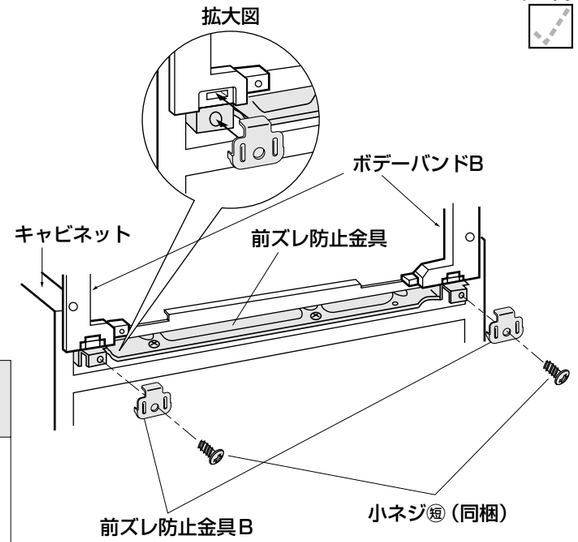
- アース工事は必ず販売店に依頼してください。

チェック

Ⅰ-3-7.前ズレ防止金具Ｂの取付

- ドアを少し引き出し、Ⅰ-3-2でキャビネット底面に固定した前ズレ防止金具の前面ネジ穴に前ズレ防止金具Ｂを前方より当てて、左右共に小ネジ㊦で締め込んでください。

※前ズレ防止金具Ｂの上端曲がり部が本体のボデーバンドＢ切欠き穴に差し込まれていることを確認してください。



⚠注意

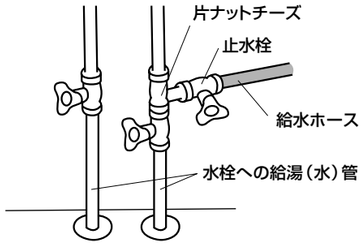
必ず前ズレ防止金具Ｂを取り付ける

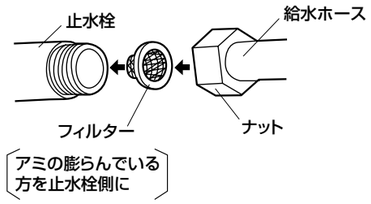
ドアの開閉などにより製品が前へ動き、キャビネットより落下する恐れがあります。

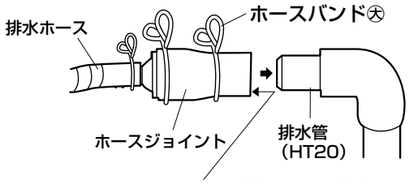
Ⅰ-3-8.給湯（水）管・排水管との接続

チェック

①片ナットチーズと止水栓を使用して水栓への給湯（水）管を分岐してください。
※食器洗い乾燥機専用の止水栓を必ず設置してください。
②止水栓にフィルターを入れ、給水ホースを確実に接続してください。（フィルターは給水ホースにテープ止めされています。）
※給水ホースのナットは手で軽く締め込んだ後、半回転くらい締め付けてください。適正締め付けトルクは5～10N・m｛50～100kgf・cm｝です。
③排水管にホースジョイントを接続し、ホースバンド㊦で止めてください。
※排水ホースに折れやねじれがないことを確認してください。







ホースジョイントの内面を水で濡らして作業すると接続がしやすくなります。

⚠注意

給水ホース・排水ホースは切断しない

禁止

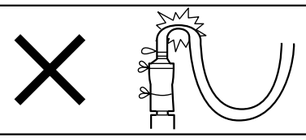
水もれの原因となります。

Ⅱ.シンク下設置の場合（木製）

Ⅱ-1.設置前の確認

チェック

●コンセント位置の確認
所定の位置に125V、15Aのアースターミナル付埋め込みコンセントがあることを確認してください。
●給湯（水）管位置の確認
水栓への給湯（水）管より分岐しますので、食器洗い乾燥機専用の給湯（水）管は不要です。
●排水管位置の確認
所定の位置に排水管があることを確認してください。

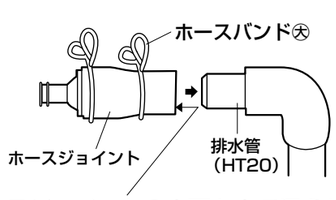


排水管の先端を上向きにしないでください。
排水ホースが折れ曲がり、排水不良、機器の故障の原因になる恐れがあります。

Ⅱ-2.設置前の作業

チェック

●キャビネット設置前にホースジョイントを食洗用排水管に接続し、ホースバンド㊦で止めてください。



ホースジョイントの内面を水で濡らして作業すると接続がしやすくなります。

Ⅱ-3.設置

Ⅱ-3-1.転倒防止金具の取付

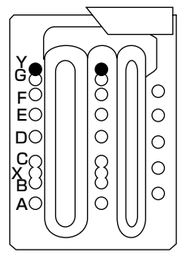
チェック

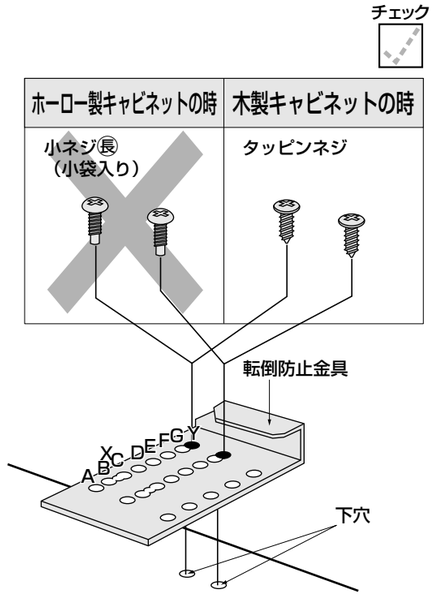
●転倒防止金具をＹの穴の位置で、シンクキャビネット底面に取り付けてください。
※キャビネットの種類により使用するネジが異なります。右図にしたがってネジを選択してください。
※電気ドライバーは使わないで手締めしてください。ネジ山がつぶれて締まらなくなる恐れがあります。

⚠注意

必ず転倒防止金具を取り付ける

開いたドアを押さえたときに製品が転倒する恐れがあります。



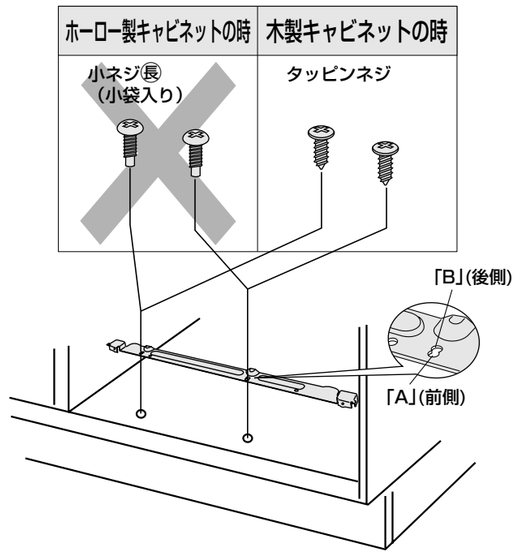


Ⅱ-3-2.前ズレ防止金具の取付

チェック

前ズレ防止金具をシンクキャビネット底面の下穴に合わせて「B」の穴を選んで、締め込んでください。

※キャビネットの種類により使用するネジが異なります。右図にしたがってネジを選択してください。
※電気ドライバーは使わないで手締めしてください。ネジ山がつぶれて締まらなくなる恐れがあります。

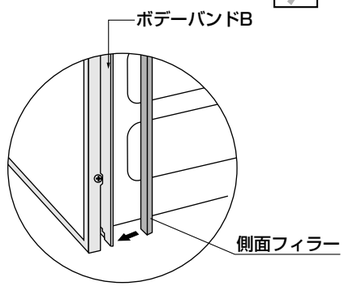


Ⅱ-3-3.側面フィラーの取付

チェック

●キャビネットと本体のボデーバンドＢのすき間をカバーするため、同梱の側面フィラーを取り付けます。

側面フィラー裏面の台紙をはがし、ボデーバンドＢの外側及び下面に合わせて貼り付けてください。



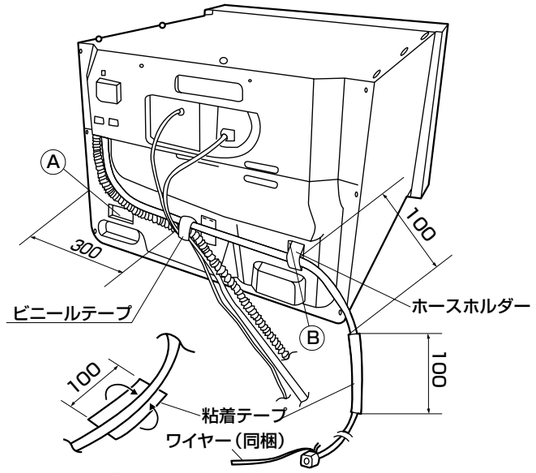
Ⅱ-3-4.ホース、コード類の接続準備

チェック

※本体をビルトインする時に作業がしやすくなり、また電源コード・アース線が転倒防止金具にかみ込まないようにするためです。必ず行ってください。

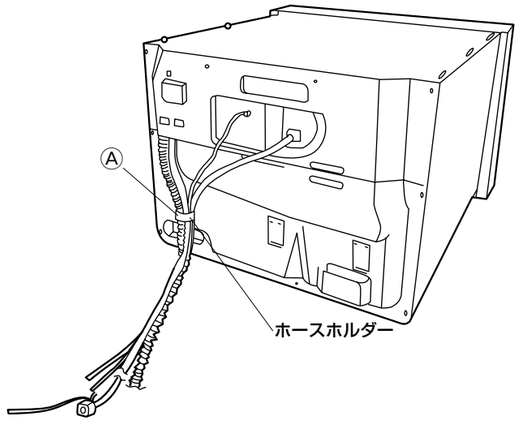
●食器洗い乾燥機の設置位置によりホース、コード類の束ね処理が異なります。

〈右設置の場合〉



①位置Ⓐに取りつけられているホースホルダーをはずし、電源コード・アース線・給水ホース・排水ホースを上図の位置でビニールテープ等で束ね、給水ホースのみ位置Ⓑで固定してください。
②位置Ⓑより約100mmのところでテープ（梱包時に本体のドアを固定しているもの）で約100mmの範囲巻きつけてください。
※ビルトインする時に給水ホースがシンク底面を滑りやすくするためであり、このテープの使用をお願いします。
③給水ホース先端にワイヤー（同梱）を上図のようにつないでください。
※ビルトインする時に、中仕切板の切り欠き部より給水ホースを引き出しやすくするためです。

〈左設置の場合〉

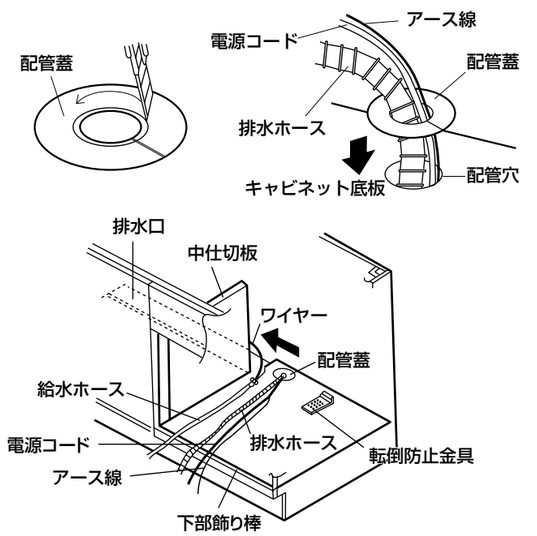


①位置Ⓐに取りつけられているホースホルダーを一度はずし、電源コード・アース線・給水ホース・排水ホースを位置Ⓐで固定してください。
②給水ホース先端にワイヤー（同梱）を上図のようにつないでください。
※ビルトインする時に、中仕切板の切り欠き部より給水ホースを引き出しやすくするためです。

Ⅱ-3-5.本体のビルトインとホースジョイントの接続

チェック

①排水ホース・電源コード・アース線を底板配管穴に通し、底板排水口より引き寄せてください。
②キャビネットに付属の配管蓋を、裏面の溝に沿ってカッター等で穴を大きく加工してください。
③配管穴に通した排水ホース・電源コード・アース線に配管蓋を取り付け、底板に貼り付けてください。
④②給水ホースを中仕切板の後ろを通し、引き寄せてください。



本体をキャビネットに一気に押し込まない

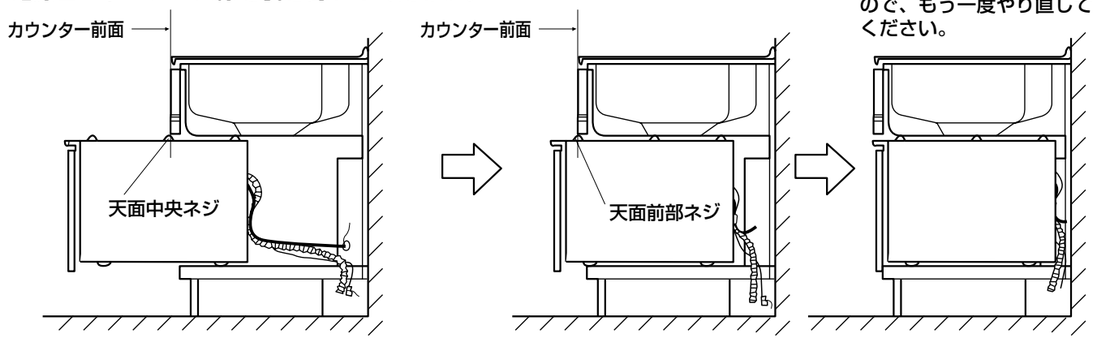
ホース類が折れたり、転倒防止金具に挟み込む恐れがあります。

⑤食器洗い乾燥機を両手で持ち上げ、シンクキャビネット底面に後脚をのせた状態で、ゆっくり押し込み、カウンター前面と食器洗い乾燥機天面中央ネジ部が同一線上のところで、いったん給水ホース・排水ホース・電源コード・アース線を引き寄せてください。

⑥さらに食器洗い乾燥機をゆっくり押し込み、カウンター前面と食器洗い乾燥機天面前部ネジ部が同一線上のところで⑤同様に引き寄せてください。

⑦最後まで押し込み、再度引き寄せてください。

注)ホース、コード類の引き込みがスムーズでない場合は、かみ込みの恐れがありますので、もう一度やり直してください。



⚠警告

ビルトインのとき電源コード、アース線、排水ホース、給水ホースに傷をつけない

禁止

感電・漏電・火災や水もれの原因となります。

電源コードを転倒防止金具や本体の底面や脚との間に挟み込まない

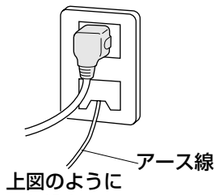
禁止

感電・漏電や火災の原因となります。

Ⅱ-3-6.電源コード・アース線の接続

チェック

※以下の作業はシンクキャビネットの底板排水口より行ってください。
①電圧が100Vであることを確認してから、埋め込みコンセントに電源プラグを差し込んでください。
②アース線をアースターミナルに接続してください。
※ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には、絶対に接続しないでください。
（法令等で禁止されています。）



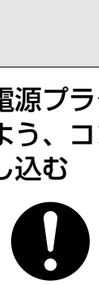
上図のように差し込む

禁止

電源プラグの向きが逆です。

⚠警告

電源プラグはコードが下方向に出るよう、コンセントに奥まで確実に差し込む



上方向に出すとプラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火する恐れがあります。

アースを確実に取り付ける

故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

アース線接続

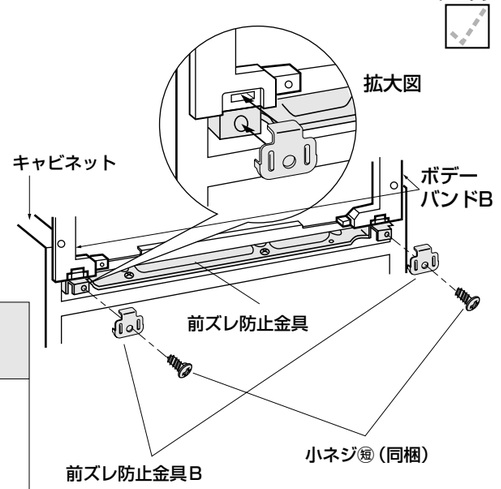
●アース工事は必ず販売店に依頼してください。

Ⅱ-3-7.前ズレ防止金具Ｂの取付

チェック

●ドアを少し引き出し、Ⅱ-3-2でキャビネット底面に固定した前ズレ防止金具の前面ネジ穴に前ズレ防止金具Ｂを前方より当てて、左右共に小ネジ㊟で締め込んでください。

※前ズレ防止金具Ｂの上端曲がり部が本体のボデーバンドＢ切欠き穴に差し込まれていることを確認してください。



⚠注意

必ず前ズレ防止金具Ｂを取り付ける

ドアの開閉などにより製品が前へ動き、キャビネットより落下する恐れがあります。

Ⅱ-3-8.給湯（水）管・排水管との接続

チェック

①片ナットチーズと止水栓を使用して水栓への給湯（水）管を分岐してください。

※食器洗い乾燥機専用の止水栓を必ず設置してください。

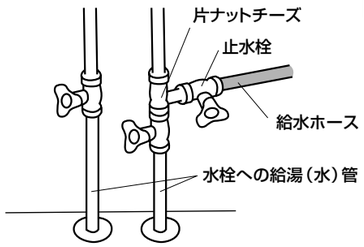
②止水栓にフィルターを入れ、給水ホースを確実に接続してください。（フィルターは給水ホースにテープ止めされています。）

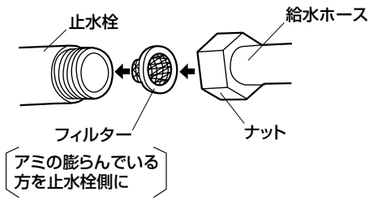
※給水ホースのナットは手で軽く締め込んだ後、半回転くらい締め付けてください。適正締め付けトルクは5～10N・m｛50～100kgf・cm｝です。

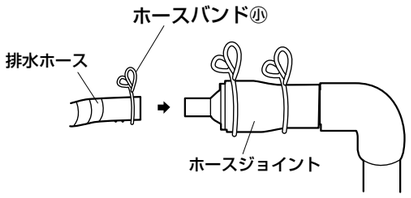
③ホースジョイントに排水ホースを接続し、ホースバンド㊫で止めてください。

※排水ホースに折れやねじれがないことを確認してください。

※排水ホースの内面を水で濡らして作業すると接続しやすくなります。







⚠注意

給水ホース・排水ホースは切断しない

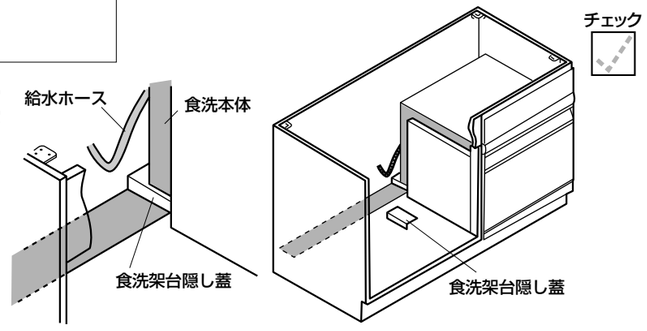
水もれの原因となります。

禁止

Ⅱ-4.設置後の作業

チェック

●シンクキャビネットの収納側からキャビネットに付属の架台隠し蓋を取り付けてください。
取付は食洗機本体と架台の間に差し込むように行ってください。



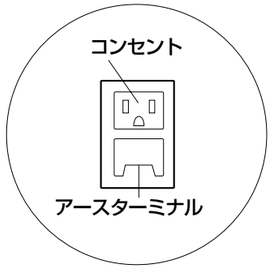
Ⅲ.シンク横設置の場合（足元スライドタイプ）

Ⅲ-1.設置前の確認

チェック

●コンセント位置の確認
所定の位置に125V、15Aのアースターミナル付埋め込みコンセントがあることを確認してください。

●給湯（水）管・排水管位置の確認
所定の位置に給湯（水）管・排水管があることを確認してください。



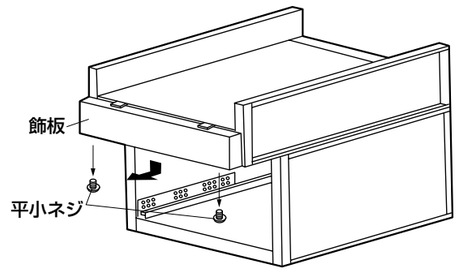
Ⅲ-2.設置前の作業

チェック

①引出しを取りはずしてください。

②飾り板を取りはずしてください。

※飾り板を取りはずさずに食器洗い乾燥機を組み込むと飾り板を損傷する恐れがあります。



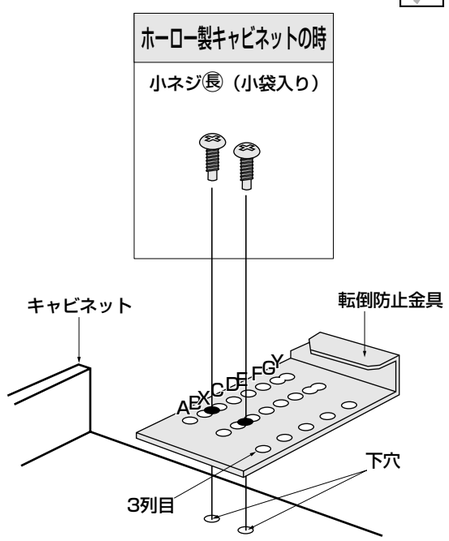
〈ホーロー製キャビネットの場合〉

Ⅲ-3.設置

チェック

Ⅲ-3-1.転倒防止金具の取付

●転倒防止金具をXの穴の位置で、キャビネットに取り付けてください。



⚠注意

必ず転倒防止金具を取り付ける

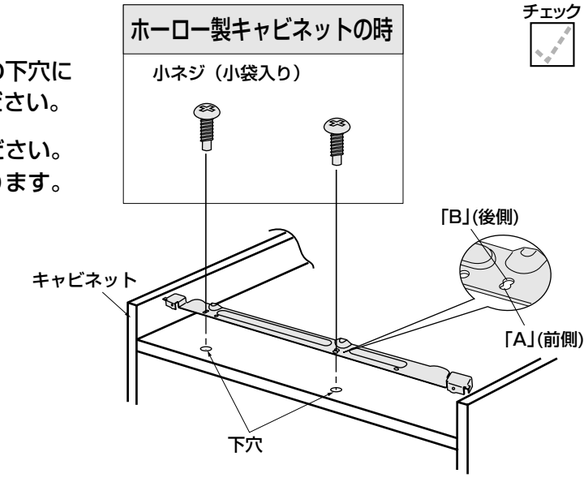
開いたドアを押さえたときに製品が転倒する恐れがあります。

Ⅲ-3-2.前ズレ防止金具の取付

チェック

●前ズレ防止金具をシンクキャビネット底面の下穴に合わせて「B」の穴を選んで、締め込んでください。

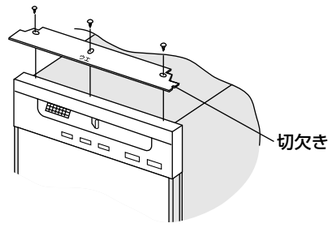
※電気ドライバーは使わないで手締めしてください。ネジ山がつぶれて締まらなくなる恐れがあります。



Ⅲ-3-3.結露防止プレートの取付

チェック

●キッチンカウンター内面が結露する恐れがありますので結露防止プレートを必ず取り付けてください。
●本体ボデーバンド3か所の締め付け穴に合わせタッピンネジ(黒色)3本で取り付けてください。
●フィラーが波打たない様、ネジはまん中から締め付けてください。強いトルクで締め付けると波打ちやすくなりますので、電気ドライバーで締め付けないでください。
●「切欠き」のある方を右側にしてください。
●「ウエ」の刻印面を上にして取り付けてください。

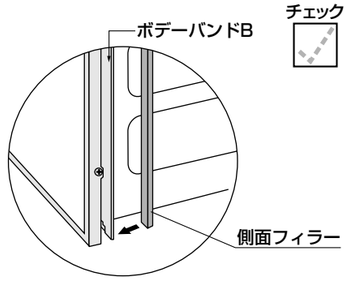


Ⅲ-3-4.側面フィラーの取付

チェック

●キャビネットと本体のボデーバンドBのすき間をカバーするため、同梱の側面フィラーを取り付けます。

側面フィラー裏面の台紙をはがし、本体ボデーバンドBの外側及び下面に合わせて貼り付けてください。

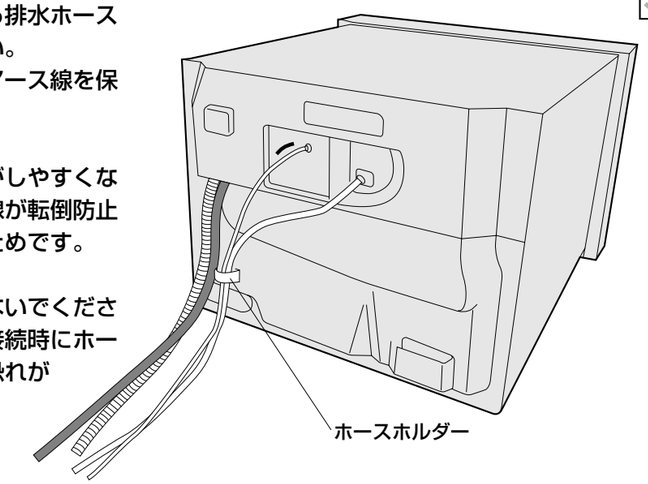


Ⅲ-3-5.ホース、コード類の接続準備

チェック

①ホースホルダーで保持されている排水ホースと給水ホースをはずしてください。
②ホースホルダーで電源コード・アース線を保持してください。

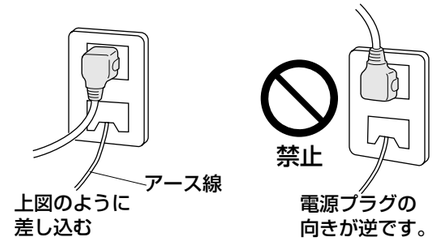
※本体をビルトインする時に作業がしやすくなり、また、電源コードやアース線が転倒防止金具にかみ込まないようにするためです。必ず行ってください。
※給水ホース、排水ホースは束ねないでください。給湯（水）管・排水管との接続時にホースが折れて排水不良が発生する恐れがあります。



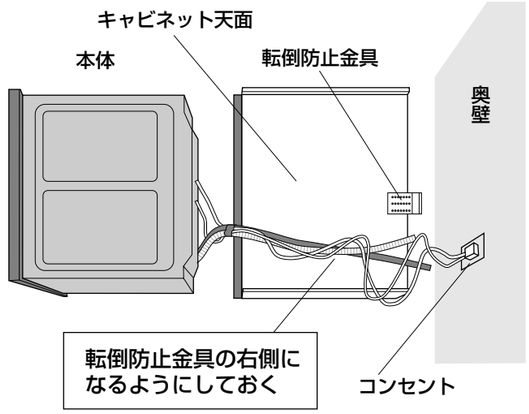
Ⅲ-3-6.電源コード・アース線の接続

チェック

①電圧が100Vであることを確認してから埋込みコンセントに電源プラグを差し込んでください。



②アース線をアースターミナルに接続してください。
※ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には、絶対に接続しないでください。（法令等で禁止されています。）



⚠警告

電源プラグはコードが下方向に出るよう、コンセントに奥まで確実に差し込む

上方向に出すとプラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火する恐れがあります。

⚠警告

アースを確実に取り付ける

故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

アース線接続

●アース工事は必ず販売店に依頼してください。

⚠警告

束ねたホース、コード類を転倒防止金具の左側にしない

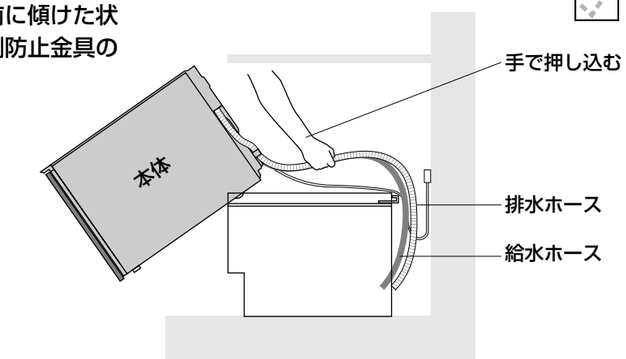
禁止

傷んで水もれ･感電･ショート発火の原因になります。

Ⅲ-3-7.本体のビルトインとホースジョイントの接続

チェック

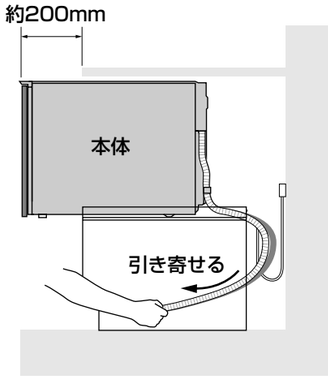
①本体の後脚をキャビネットに乗せ、前に傾けた状態で、給水ホースと排水ホースを転倒防止金具の右側から下に押し込んでください。
※本体の下面を手でささえ、ドアは持たないようにしてください。



②本体をキャビネットの上をすべらしながら押し込み、約200mm押し込みを残した位置でキャビネットの下から給水ホースと排水ホースを引き寄せてください。

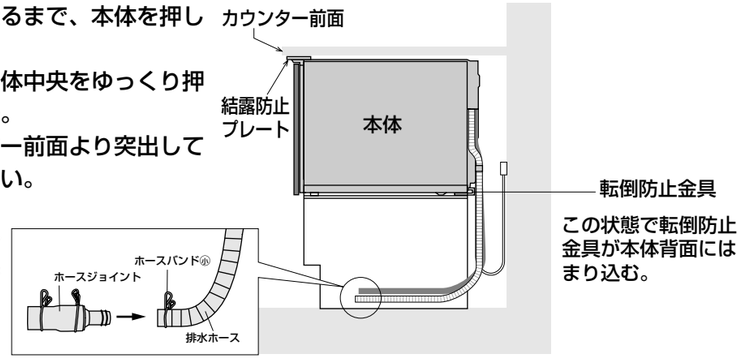
本体をキャビネットに一気に押し込まない

排水ホースが折れ曲がり
排水不良の原因になります。



③本体前面左右のフランジ部（樹脂製）がキャビネットの側板の前面木口に当たるまで、本体を押し込んでください。
※隣接する機器等に注意し、本体中央をゆっくり押してビルトインしてください。
※結露防止プレートがカウンター前面より突出していないことを確認してください。

④排水ホースにホースジョイント（同梱）を奥いっぱいまで挿入し、ホースバンド㊀で止めてください。
※排水ホースの内面を水で濡らして作業すると接続しやすくなります。



Ⅲ-3-8.前ズレ防止金具Ｂの取付

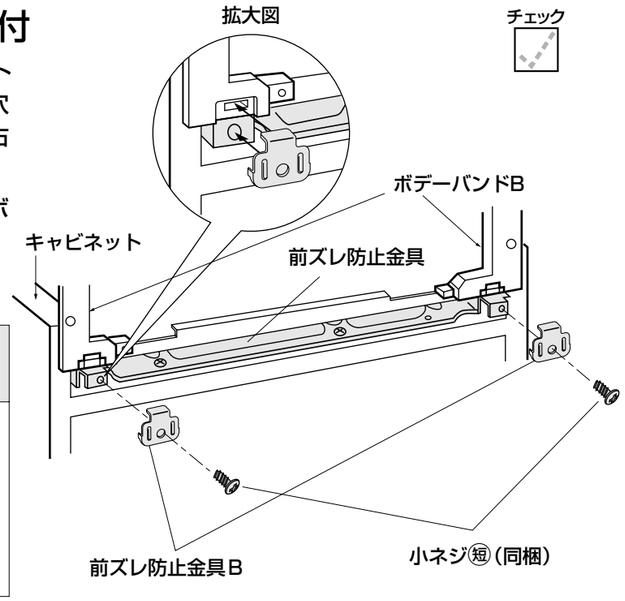
チェック

①ドアを少し引き出し、Ⅳ-3-2でキャビネット底面に固定した前ズレ防止金具の前面ネジ穴に前ズレ防止金具Ｂを前方より当てて、左右共に小ネジ㊁で締め込んでください。
※前ズレ防止金具Ｂの上端曲がり部が本体のボデーバンドＢ切欠き穴に差し込まれていることを確認してください。

⚠注意

必ず前ズレ防止金具Ｂを取り付ける

ドアの開閉などにより製品が前へ動き、キャビネットより落下する恐れがあります。



Ⅲ-3-9.給湯（水）管・排水管との接続

チェック

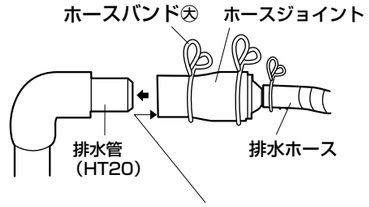
①キャビネット内に引き込んだ給水ホース・排水ホースをキャビネットと後壁面との間に押し戻してください。
②排水管にホースジョイントを接続し、ホースバンド㊃で止めてください。
※排水ホースに折れやねじれがないことを確認してください。
③フィルターを止水栓に入れ、給水ホースを接続してください。
（フィルターは給水ホースにテープ止めされています。）

⚠注意

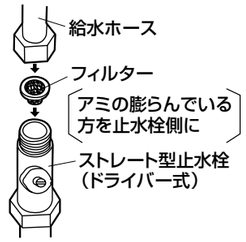
給水ホース・排水ホースは切断しない

水もれの原因となります。

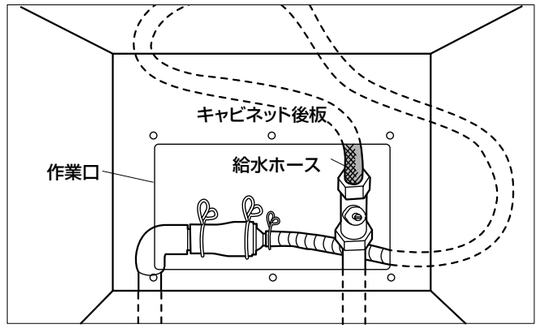
禁止



ホースジョイントの内面を水で濡らして作業すると接続がしやすくなります。



給排水ホース接続完成図



パネルの取付（パネルを取り付ける場合のみ）

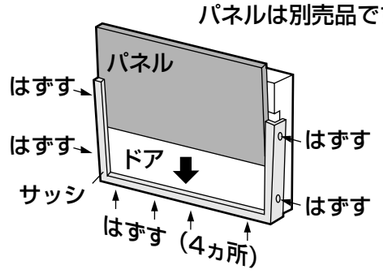
チェック

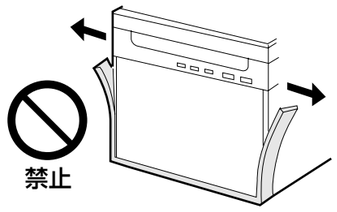
①パネルを少し引き出し、サッシの左右および下辺のネジをはずしてください。
※下辺のネジをはずさないとパネルを取り付けることはできません。

②パネルをサッシとドアの間に挿入し、サッシの下方を持ち上げてパネルをドア上部の溝部に挟み、左右のネジを仮止めしてください。

③パネルを押えつけながら下辺のネジを締め付け、最後に左右のネジを締め付けてください。
※サッシ上部を無理に広げないでください。サッシが破損する恐れがあります。

パネルは別売品です。





試運転

チェック

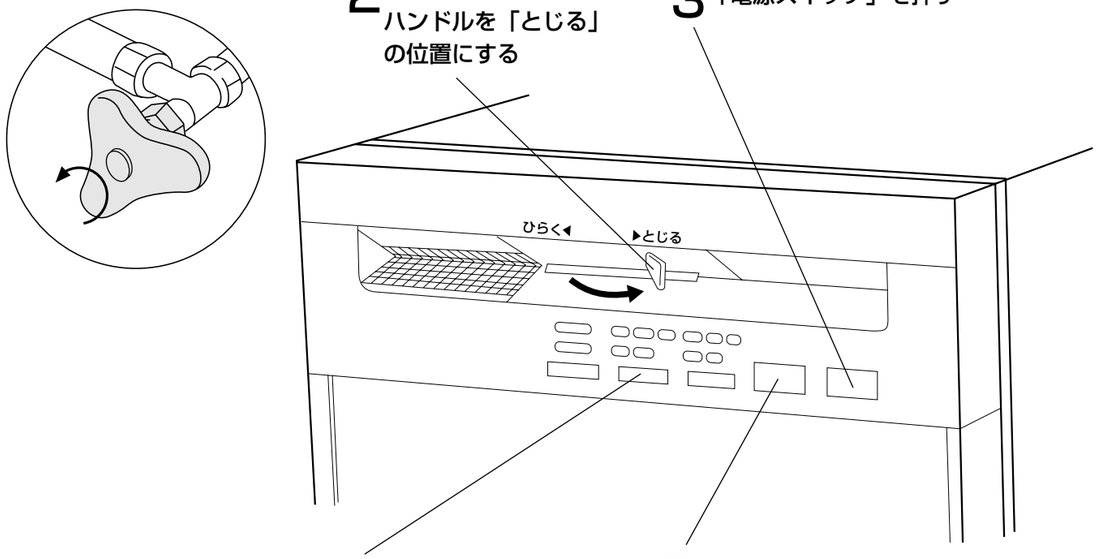
- あらかじめ電源が入ることと、給湯（給水）の開栓を確認してください。
- 次の順序で試運転を行ってください。約8分で終了します。

※本機への通電、通水が不可状態で試運転が行えない時は、後に通電、通水が可能になった時に必ず試運転を行ってください。（ドアを開けて、水や湯を入れて試運転をしないでください。）

1 止水栓を開く

2 ドアを閉め ハンドルを「とじる」の位置にする

3 「電源スイッチ」を押す



4 「予洗」コースを選ぶ

5 「スタート/一時停止」ホタンを押す

確認項目

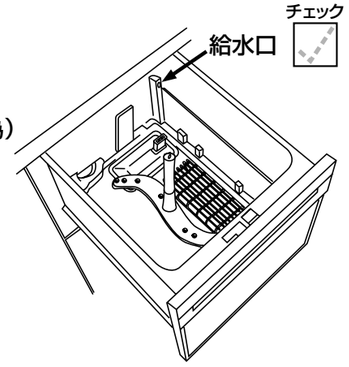
チェック

- 噴射音：バシャバシャ音がするか確認する。
  （一定量の水が入り、シャワーを噴射しながら庫内のノズルが回転する為）
- 運転中、給・排水の接続部や止水栓、その他からの水もれがないことを十分確認してください。
- 運転が終了しますとブザーが鳴り「電源スイッチ」が「切」になります。
- ドアを開け、庫内の水が排水されていることを確認してください。

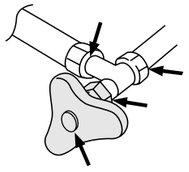
※「電源スイッチ」が「切」の状態で、給水口から水が出ていないことを確認してください。

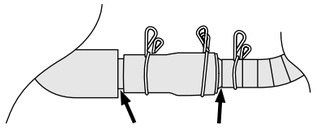
※試運転後は、止水栓を開いたままにしておいてください。

※万が一の水漏れを防止する為必ず家屋の元水栓を閉めてください。



水もれ確認





⚠注意

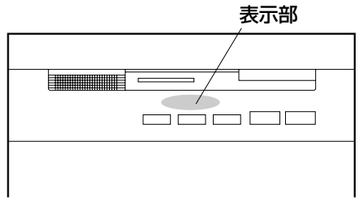
凍結の恐れのある所へ設置するときは必ず水抜き作業を行った後、止水栓を閉める。

止水栓を閉めないと凍結した際に、給水弁を破損して水漏れする恐れがあります。

異常報知について

チェック

- 試運転で以下のように表示部が点滅してブザーが鳴る場合は以下の内容を確認してください。



パワフル 点滅

パワフル 消灯

表　　示	原　　因	処　　置
パワフル 標準 少量 スピーディ 予洗	**排水不良** 排水ホースの折れやつまりによって、洗浄槽内の水が排水できないため。	●電源スイッチを「切」にする。 ●排水ホースに折れぐせがついていないか確認する。 （折れぐせがついている場合は直す）
パワフル 標準 少量 スピーディ 予洗	**給水不良** 断水や水道栓の開け忘れなどで給水ができないため。	●電源スイッチを「切」にする。 ●断水の場合は断水の回復を待って運転する。 ●水道栓（元栓および台枠内の止水栓）は必ず開栓する。
	●給水弁のフィルターに異物が詰まり給水できないため。	●給水弁先端にあるフィルターの付着物を取り除く。
パワフル 標準 少量 スピーディ 予洗	**機内の水漏れ不良** 本体内から水漏れしている	①電源（ブレーカー）を切る。 ②本体底面前方の排水口キャップを外して本体底面の水を抜く。 （排水口キャップの位置は4ページの「各部のなまえと寸法」を参照） ③排水口キャップを本体底面のもとの位置にはめ込む。 ④電源（ブレーカー）を入れる。

上記の処置後、再度運転を行ってください。

試運転後の作業

チェック

「設置前の作業」ではずしたキャビネットの引出しおよび点検口のフタ等を元の状態になるようにしてください。